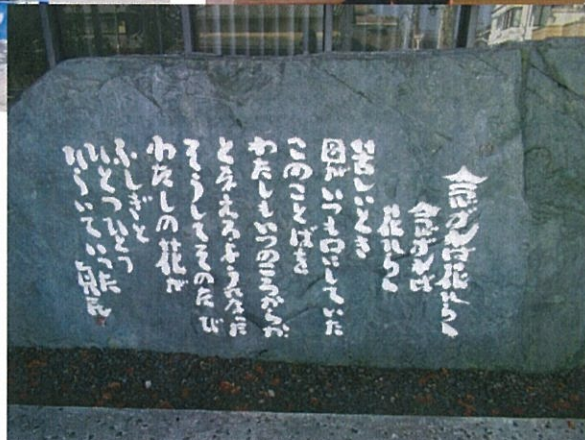


第39回 教育研究全国大会（栃木大会）
第3分科会 道徳教育 資料



愛媛県教育研究協議会

砥部町立麻生小学校

三好 敦子

提案テーマ

豊かな道徳性を育む地域教材の開発

I はじめに

本校は、松山平野の南端に位置し、近くに重信川や砥部川が流れ、緑豊かな自然に恵まれた地域にある。また、近隣には動物園や大学等の公立施設、伝統ある砥部焼の窯元があるとともに、保護者や地域の方が協力的で、地域での体験活動が充実している。学校規模は、学級数 16 学級（うち特別支援学級 2 学級）、全校児童数 436 名の中規模校である。

令和 3 年度から愛媛県教育委員会より「特色ある道徳教育推進事業」の指定を受け、研究主題を「豊かな心を持ち、共によりよく生きようとする児童の育成～関わりを大切にしながら、考えを深める道徳科の授業を通して～」と定め、研究を推進している。

具体的実践として、多様な道徳用教材の選択・開発とその効果的な活用に取り組んでいる。地域教材の開発は、児童がより身近に関わり、先人の行為に思いをさせ、主体的・対話的に考えることにつながる。さらに、他の教育活動と有機的に関連させ、総合単元的に扱うことで、自己の生き方について考えを深め、豊かな道徳性を育むことができると考える。そこで、本提案では、「豊かな道徳性を育む地域教材の開発」について取組を踏まえて提案したい。

II 本校研究の概要

1 研究主題

豊かな心を持ち、共によりよく生きようとする児童の育成
～関わりを大切にしながら、考えを深める道徳科の授業を通して～

2 研究の目標

関わりを大切にし、考えを深める道徳科の授業を推進することにより、豊かな心を持ち、共によりよく生きようとする児童を育てる。

3 研究の仮説

- (1) 考え議論する場を効果的に設定し、児童が対話したり協働したりしながら、考えを深められるような手立てを工夫すれば、自己の生き方について考えをより深め、主体的に判断し、実践していこうとする児童が育つであろう。
- (2) 全教育活動を通じて行う道徳教育と道徳科の関連を図り、関わりを大切にしたい計画的・発展的な指導を行えば、児童の内面に根ざした道徳性を養うことができるであろう。

4 研究内容

- (1) 道徳教育のカリキュラム・マネジメントの充実
 - ア 児童・保護者・教職員のアンケート結果の分析・考察（令和 3 年度）
 - イ 機能的な道徳教育諸計画の作成と活用の工夫《全体計画、年間指導計画、別葉》

- ウ 各教科等における道徳教育と道徳科との関連的な指導の工夫
- エ 多様な道徳教育用教材の選択・開発とその効果的な活用
- (2) 主体的・対話的で深い学びを実現する道徳科の充実
 - ア 教材分析を生かした発問の工夫
 - イ 多様で効果的な指導方法の工夫
 - 話し合い活動の充実（麻生っ子スマイルトークの充実）
 - 書く活動の充実（思考ツールの活用・ワークシートの工夫）
 - 表現活動（動作化・役割演技等）
 - 板書を生かす工夫
 - ICTの活用
 - ウ 一人一人のよさを伸ばし、成長を促すための評価
 - スマイル日記
 - 評価方法の工夫と評価の見取り
- (3) 道徳性を育てる異年齢集団活動の充実
 - ア なかよし班活動
 - イ 集会活動
- (4) 家庭・地域との連携
 - ア 家庭や地域への啓発活動
 - イ 体験活動と交流活動の充実
- (5) 道徳教育の視点に立った環境の整備

Ⅲ 研究の実際

1 地域教材の開発・他教科等との関連

(1) 地域教材の開発

児童が、教材に親しみながら、ねらいとする道徳的価値について考えを深められるように、地域教材の活用や開発に取り組んだ。「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」には、教材の開発と活用の創意工夫について次のように解説している。

児童の発達の段階や特性、地域の実情等を考慮し、多様な教材の活用にも努めること。特に生命の尊厳、自然、伝統と文化、先人の伝記、スポーツ、情報化への対応等の現代的な課題などを題材とし、児童が問題意識をもって多面的・多角的に考えたり、感動を覚えたりするような充実した教材の開発や活用を行うこと。(p. 102)

そこで、地域の魅力ある題材を検討し、とべ動物園の「しろくまピース」、砥部焼の陶祖「杉野丈助」、砥部町の詩人「坂村真民」、麻生校区在住のカンボジアで国際貢献をされている地域復興支援活動家「高山良二」を取り上げ、教材の開発をした。

学年	地域教材	内容項目
第3学年	「がんばれ しろくまピース」	D生命の尊さ
第4学年	「焼き物の町に～杉野丈助～」	C伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度
第5学年	「タンポポ魂～坂村真民～」	Dよりよく生きる喜び
第6学年	「平和の種をまく～高山良二～」	A希望と勇気、努力と強い意志

○ 「がんばれ しろくまピース」(第3学年 内容項目「D生命の尊さ」)

第3学年では、総合的な学習の時間「砥部のステキを見つけよう」との関連を図り、校区にある「とべ動物園」で生まれ、日本で初めて人工飼育に成功した「しろくまピース」の話の位置付けた。「しろくまピース」の飼育員である高市さんへのインタビュー等を基に道徳用教材を開発した。今年度、道徳科の授業を構想している。

○ 「焼き物の町に～杉野丈助～」(第4学年 内容項目「C伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」)

第4学年では、社会科「郷土や伝統や文化と先人たち」や総合的な学習の時間「砥部焼作り体験」との関連を図り、砥部焼の陶祖・杉野丈助を位置付けた。社会科の「とべのくらし」(砥部町教育委員会発行)を基に、道徳用教材を作成した。また、砥部焼伝統工芸士として活躍されている白潟八洲彦さんに取材をし、教材の時代考証やアドバイスをいただいた。



【白潟さんへの取材】

○ 「タンポポ魂～坂村真民～」(第5学年 内容項目「Dよりよく生きる喜び」)

砥部町では、「坂村真民さんに学ぶ指導案集」(砥部町教育委員会、坂村真民記念館発行)を作成している。そこで、第5学年に坂村真民の教材を位置付け、児童が取り組みやすいように改編をして活用した。国語科との関連を図り、補充、深化、統合させながら、指導に当たった。



【坂村真民】

○ 「平和の種をまく～高山良二～」(第6学年 内容項目「A希望と勇気、努力と強い意志」)

第6学年では、昨年度から、総合的な学習の時間「平和について考えよう」において麻生小校区在住の高山良二さん(地雷処理・地域復興支援活動家)との交流を始めた。カンボジアで国際貢献をされている高山良二さんとの交流を通して、平和について考えを深める学習となった。今年度、高山良二さんを題材として作成した道徳用教材を活用して道徳科の授業を構想している。



【高山良二さんとの交流会】

(2) 各教科等における道徳教育と道徳科との関連的な指導の工夫

第5学年「タンポポ魂～坂村真民～」の実践より

坂村真民は、貧しい少年時代を過ごし、大きな困難に直面してもなおくじけず生き抜いた詩人である。坂村真民からは、生きる勇気や希望、生きていることの魅力や生きる意味の深さを感じられる。そのため人間としてよりよく生きる喜びを学ぶことができる教材としてふさわしいと考えた。

本校では、第5学年に坂村真民の教材を位置付け、児童が取り組みやすいように改編をした。また、国語科「詩を味わおう」「みずぐ探しの旅」の単元でも坂村真民の詩を扱い、道徳科と関連を図りながら総合単元的に扱うことで、自己の生き方について考えを深められるようにした。

国語科「詩を味わおう」（9月）

「念ずれば花ひらく」（坂村真民・作）

- 坂村真民の生い立ちを知り、詩のすばらしさを味わう。



道徳科「タンポポ魂～坂村真民～」（D よりよく生きる喜び）（11月）

- 「タンポポ魂」を書いた坂村真民が何を伝えたかったのかを考えることを通して、どんな困難にも負けない人間としての強さや気高さに気付き、夢や希望をもって自分らしくよりよく生きていこうとする道徳的実践意欲を高める。



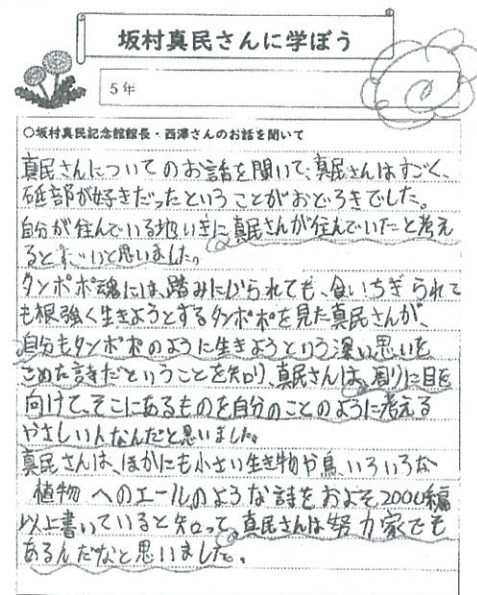
国語科「坂村真民さんに学ぼう」（関連教材：「みずゞ探しの旅」）（1月・2月）

- 坂村真民記念館館長さんの話を聞き、坂村真民の詩への思いや生き方について考える。（地域の人材活用）
- 坂村真民の詩を読んだ感想や詩を選別した理由を交流し、自分の考えを広げたり深めたりする。（学習発表会にて発表）
- 自分のテーマを決め、詩に表現する。

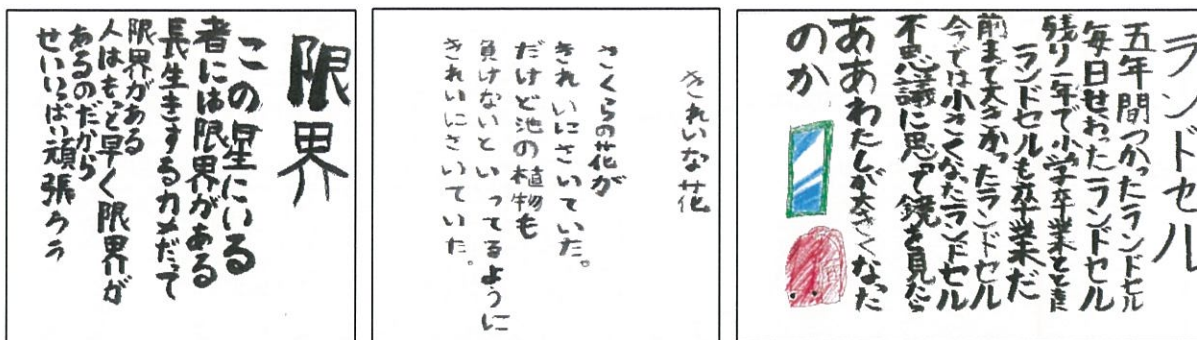
まず、道徳科「タンポポ魂～坂村真民～」を学習する前に、国語科「詩を味わおう」において、坂村真民の「念ずれば花ひらく」の詩を取り上げた。その際、坂村真民の生い立ちにも触れ、詩が生まれた背景についても学習した。生い立ちを知ることにより、「念ずれば花ひらく」から、坂村真民のメッセージを感じ取りながら詩を味わうことができた。

次に、道徳科「タンポポ魂～坂村真民～」を学習した。児童は、国語科において、坂村真民について学習をし、地域の先人であることに親しみを覚えることができていることもあり、スムーズに坂村真民についての学習に取り組むことができた。「タンポポ魂」を書いた坂村真民が何を伝えたかったのかを考えることを通して、どんな困難にも負けない人間としての強さや気高さに気付き、夢や希望をもって自分らしくよりよく生きていこうとする道徳的実践意欲を高めることをねらいとして実践した。

その後、国語科の教材「みずゞ探しの旅」と関連させて、「坂村真民さんに学ぼう」の単元を構想した。坂村真民の詩の中から自分が好きな詩を選んで発表したり、坂村真民記念館館長さんを招き、坂村真民の詩への思いや生き方についての話を聞いたり、自分で詩を作ったりして、坂村真民についての学習を深めた。坂村真民館館長さんとの交流では、「真民さんがなぜ、タンポポが好きだったのか。」「なぜ、小さな草花や虫の作品が多いのか。」など質問をし、「一生懸命生きていくことのすばらしさ」について、より一層考える機会となった。その後の「詩を作ろう」では、自分もよりよく生きていこうという思いが込められた詩を作る様子が見られた。総合单元的に学習することで、地域の先人である坂村真民に親しみを感じ、その生き方から学びを深めることができた。



【館長さんとの交流での児童の感想】



【児童が作った詩】

2 主体的・対話的で深い学びを実現する道徳科の充実

第5学年道徳科「タンポポ魂～坂村真民～」の授業より

(1) 教材分析を生かした発問の工夫

教材研究する際に、教材分析シートを作成した。教材の骨子として「①道徳的に変容したのは誰か」「②変容するきっかけになったことは何か」「③生き方についての考えを深めるところはどこか」を分析することで、中心発問が見えてくる。そして、中心発問と予想される児童の発言に対する問い返しなどを考えるようにした。ねらいをはっきりさせて授業に臨むことで、ねらいからそれることなく児童の考えを深めることができる。また、問い返しの発問を考えておくことで、児童の考えの根拠を引き出したり、より深まった考えを全体で共有したりすることにつながった。

(2) 話し合い活動の充実（麻生っ子スマイルトーク）

「真民さんはタンポポ魂の詩を通して、みんなにどんなメッセージを伝えたかったのか。」ということについて、フリートークで話し合いを取り入れた。まず、自分の考えをもたせるためにワークシートに記入させてから、「麻生っ子スマイルトーク」をするという流れをとることで、全員が自分の考えをもち話し合い活動に主体的に参加できた。「麻生っ子スマイルトーク」の際は、必ず相手のよいところ（納得できるところ）を伝えるように呼び掛けることで、自分の考えと比べながら聴き、相手の考えのよいところを見付けられるように促した。フリートークを取り入れ、友達の考えに触れることで、自分の考えに変容が見られる児童も数多くいた。坂村真民が何を伝えたかったのかについて、「麻生っ子スマイルトーク」を通して考えさせることで、友達の多様な考えに触れ、詩から様々なメッセージを受け取り、よりよく生きようとする意欲につなげることができた。



【麻生っ子スマイルトーク】

あきらめずに前に向かって進む。

自分自身の花を咲かせる。

あきらめなければ何かできる。

人はすごいものなんだ。

粘り強く生きたら今より進歩する。

負けずにまっすぐ生きてほしい。

明るく前向きに生きてほしい。

つらくても強く生きてほしい。

【児童が受け取ったメッセージ】

美しくなくてもいいから自分自身の好きなように生きていけばいい。

美しくなくてもいいから自分自身の好きなように生きていけばいい。

人からは見てもらえなくてもいいし、何かを言われても自分がしたいことをして、つらいことも苦しいことも乗り越えていきたい。

あなた
くじけそうでも
あきらめない

友
美しくなくてもいいから自分自身の好きなように生きていけばいい。

あなた
くじけそうでも
あきらめない

友
美しくなくてもいいから自分自身の好きなように生きていけばいい。

【考えの変容例】

タンポポ魂

◎真民さんから、どんなメッセージを受け取りましたか。

五年

踏みにじられても
食いちぎられても
死にもしない
枯れもしない
その根強さ
そしてつねに
太陽に向かって咲く
その明るさ
わたしはそれを
わたしの魂とする

あなた
踏みにじられても
食いちぎられても
死にもしない
枯れもしない
その根強さ
そしてつねに
太陽に向かって咲く
その明るさ
わたしはそれを
わたしの魂とする

友
踏みにじられても
食いちぎられても
死にもしない
枯れもしない
その根強さ
そしてつねに
太陽に向かって咲く
その明るさ
わたしはそれを
わたしの魂とする

○今日の学習を通して学んだことを書きましよう。(スマイル日記)

どんなにつらくても苦しくてもくじけず強く生きていたいと思えました。

直ぐ長さんもせむせむのりこえてきたから真民さんの詩は世界中に広まった
つまり努力がむくわれたんだなと思えました。

☆ふり返り

自分の意見をもつことができた	◎
友達のことを聴くことができた	◎
大切なことに気付くことができた	◎
	○
	○
	△

【ワークシート】

(3) 振り返り活動 (スマイル日記)

授業の終末での自分を振り返る時間を大切にして、スマイル日記を書かせるようにしている。スマイル日記には、真民さんから受け取ったメッセージから、自分らしくよりよく生きようとする意欲が感じられる振り返りが見られた。また、「麻生っ子スマイルトーク」や全体での学び合いを通して、真民さんから受け取ったメッセージから考えたことの変容が見られる児童もおり、他者と関わることにより、更に自分を見つめて考えを深めることができた。

第4学年道徳科「砥部焼の町に」の授業より

(1) 導入の工夫

本校は、砥部焼の窯元が集中する地域から離れており、児童は砥部焼のすばらしさを実感する機会が少ない。そこで、導入ではICTを活用し、砥部焼の良さを実感させたり、砥部焼を身近に感じさせたりすることができるようにした。砥部町内の様々な所にある砥部焼のモニュメントの写真を見せたり、愛媛県内や世界でも砥部焼が使われていることを伝えたりすることで、児童は、多くの場所に砥部焼が使われていることに気付き、本時の学習に興味をもって取り組むことができた。

(2) ゲストティーチャーの活用

本時では、砥部町民として郷土を誇りに思う人の気持ちを感じ取らせ、道徳的価値について自分の考えを深めさせるために、砥部焼伝統工芸士の白潟八洲彦さんをお招きした。白潟さんからは、砥部町には、昔から陶器を作る技術があり、当時、有田焼などの焼き物に関する情報がなかったにも関わらず、砥部焼を作ることができたという話や、杉野丈助の人柄についての話をしていただいた。また、「これからも砥部焼を発展させてほしい。」という思いも話していただいた。砥部焼に長年携わっている方の話を直接聞く場を設定したことで、児童は、砥部焼をより身近に感じ、砥部焼の良さや杉野丈助の偉大さに気付くことができた。



【ゲストティーチャーとして児童に話す白潟さん】

(3) 振り返り活動（スマイル日記）

本時では、ゲストティーチャーの話を聞いた後にワークシートに振り返りを書かせる活動を取り入れ、児童が郷土の伝統と文化を大切にし、郷土を愛する心をもつことができたか、見取ることができるようにした。児童のスマイル日記には、「砥部焼作りに関わった人を大切に思う砥部町はいいなと思う。」「砥部焼を作った丈助さんはすごいと思ったし、戦争中だったにも関わらず丈助さんの記念碑を建てた町の人もすごいと思った。」などの記述があった。社会科や総合的な学習の時間と関連させたり、ゲストティーチャーの話を聞く活動を取り入れたことが、児童の砥部町や杉野丈助、砥部焼に対する思いを高めることにつながった。

☆スマイル日記

生活をしていたか知りまわりにおる砥部焼。ほんとは
くさいだよね。と思ていました。じすがじまごうがら
わり、これいば砥部焼を作ることにたくさんの人が
関わり、2年9月の月日をかけつく、たことを知り、ふだん
まわりにおる砥部焼にはたくさんの人がかんはり、努力
があつたから、砥部焼はきれいなんだかと思てました。
そんな砥部焼を、砥部焼作りに関わらば人を大切に思て、うとべ可
しいかと思ています。

【スマイル日記】



【板書】

(4) 教材の見直し

児童の振り返りを見取ると、「丈助は尊敬され、誇りに思われていたことが分かった。」
 「丈助は家のものを燃やしてまで頑張ろうとしていてすごいと思った。」など、杉野丈助の偉大さに気付くことにとどまり、そこから郷土との関わりを意識して自己の生き方についての考えを深めるに至らない児童もいたため、教材の見直しを行った。砥部焼を発展させてきたのは、杉野丈助だけでなく、砥部町の名も無き人々による功績が大きいことに触れることで、自分と地域との関わりを見つめ、郷土や伝統を愛する心を育てられる教材になると考えた。今もなお、杉野丈助の功績をたたえる砥部町の人たちの思いを加え、郷土を愛する地域の人たちの思いを考えられるような教材に改編をした。

IV 成果と課題（○成果 ●課題）

1 地域教材の開発・他教科等との関連

- 児童にとって身近な砥部町との関わりのある先人を教材とすることで、児童は教材に親しみをもち、ねらいとする道徳的価値について考えを深めることができた。
- 各教科等と道徳科、それぞれの特質を生かして関連させた指導を行うことで、指導の効果を一層高めることができ、児童の内面に響かせることができた。
- 地域教材を作成する際には、ねらいにせまるような内容、文章表記の検討が必要である。授業実践を通して、児童の学びを見取り改善していき、より児童の実態に即した効果的な教材にしていくことが大切である。
- 道徳科で心を耕してから体験活動を行うか、体験活動を行ってから道徳科で深めていくのかなど、道徳科と他の教育活動とのより実効的な関連の見直しを図る。

2 主体的・対話的で深い学びを実現する道徳科の充実

- 教材分析シートの作成により、ねらいが明確になり、発問や問い返しを考えて授業に臨むことで、児童に自分事として考えさせることができた。
- 「麻生っ子スマイルトーク」では、ペアやグループなどの小集団において、道徳的価値の理解を基に、物事を多面的・多角的に捉えられるようになってきた。
- 「スマイル日記」を毎時間書くことで、学んだことを自分の生き方と結び付けて考えられるようになってきた。
- 地域人材を活用することで、地域の人と関わりながら、地域の先人に思いをはせ、地域の伝統や文化をより身近に感じながら学ぶことができた。
- 小集団での学びを全体へ広げ、練り合い、さらに道徳的価値を高めていく過程がまだまだ不十分である。児童相互での話合いで、練り合ったり高め合ったりする手立てを工夫する必要がある。
- 児童の発言をどのようにつなげ、広げて深めていくか教師のコーディネート力をつけていく必要がある。

【参考文献・引用文献】

「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」文部科学省 平成 30 年 廣済堂あかつき株式会社

「道徳教育 10 月号 定番教材の板書モデル 2021」 2021 年 10 月 明治図書

「令和元年愛媛県教育委員会指定 愛媛県特色ある道徳教育推進事業研究集録」令和 2 年

伊予市立由並小学校

1 日 時 令和 3 年 11 月 24 日 (水) 第 5 校時 (13 : 30 ~ 14 : 15) 於 : 自教室

2 主 題 よりよく生きる喜び

【内容項目】D よりよく生きる喜び

「よりよく生きようとする人間の強さや気高さを理解し、人間として生きる喜びを感じるこ

3 教材名 「タンポポ魂」(「坂村真民さんに学ぶ指導案集」砥部町教育委員会 坂村真民記念館 麻生小学校改編)

4 指導に当たって

【ねらいとする道徳的価値】

人間は、誇りや愛情、共によりよく生きていこうとする強さや気高さを理解することによって自分の弱さを乗り越え、人間として生きる喜びを感じることになる。しかし、自分に自信がもてないために、劣等感にさいなまれたり、人をねたんだり、恨んだり、うらやましく思ったりすることもある。したがって、様々な機会に、人間がもっている強さや気高さに気付かせるとともに、自分自身のよさや可能性を自覚することで自らを奮い立たせ、目指す生き方、誇りある生き方に近付けることが大切である。

【児童観】

本学級の児童(27名)は、明るく何事にも意欲的に取り組むことができる。しかし、困難に直面してしまうと、自分に自信がもてなかつたり、思うようにできなかつたりして、「どうせ自分は」「もうやめたい」といった弱い心に負けそうになることもある。現状に満足し、自分自身をより高めたいという思いや願いをもってよりよく生きようとするところまでは至っていない。

【目指す児童像】

どんな困難にもくじけず、夢や希望などをもって自分らしくよりよく生きようとする児童

【教材観】

砥部町にゆかりのある詩人坂村真民さんの人生を児童用にまとめたものである。真民の人生をたどり、その時々で感じた真民の気持ちに共感させながら展開していく。自分たちの故郷で生きた真民の話であり、児童は内容に興味をもって取り組むことができると考える。また、大きな困難に直面してもなおくじけずに生き抜いた真民の自らを奮い立たせ、模索しながら、よりよく生きようとする姿から学ぶことができる教材である。

【本時の指導】

導入では、事前アンケートの結果を示すことで、誰もが不安、悩み、心の弱さをもっていることを確認し、本時の方向付けを図る。展開では、父を亡くしてつらい生活を送った真民の心情に共感させる。その後、「タンポポ魂」の詩を通して真民はどんなメッセージを伝えたかったのかを考えさせる。さらに、そこから自分はどんなメッセージを受け取ったのかを考えさせることで、自分らしくよりよく生きようとする意欲を高めさせたい。終末では、スマイル日記を書かせることで、誇りある生き方、夢や希望など喜びのある生き方をしようとする意欲につなげたい。

【本時の指導と他の教育活動との関連】

国語科「詩を味わおう」「みずぶさがしの旅」「真民さんに学ぼう」

5 本 時

(1) **ねらい** 「タンポポ魂」を書いた坂村真民が何を伝えたかったかを考えることを通して、どんな困難にも負けない人間の強さや気高さに気付き、夢や希望をもって自分らしくよりよく生きていこうとする道徳的実践意欲を高める。

(2) **準 備** ワークシート、掲示物、年表、アンケート結果

(3) **展 開**

学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点 ☆評価		
1 本時のめあてに対する方向付けをする。	○ アンケートの結果を見てみましょう。 うれしい、楽しい 悲しい、つらい、不安 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・自然の家 ・友達と遊んだ ・欲しいものが手に入った </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・勉強 ・努力が報われなかった </td> </tr> </table> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">坂村真民さんの生き方から学ぼう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の家 ・友達と遊んだ ・欲しいものが手に入った 	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強 ・努力が報われなかった 	○ アンケート結果を示すことで、誰もが不安、悩み、心の弱さをもっていることに気付かせることで、本時の方向付けを図る。
<ul style="list-style-type: none"> ・自然の家 ・友達と遊んだ ・欲しいものが手に入った 	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強 ・努力が報われなかった 			
2 教材「タンポポ魂」を読んで話し合う。 (個人) ↓ (小集団) ↓ (全体)	○ どん底の日々を送っていた真民さんは、どんな気持ちだったでしょう。 ・元の生活に戻りたい。 ・嫌なことばかりでつらい。 ・なんで自分だけこんな目にあうのだろう。 ○ 真民さんはタンポポ魂の詩を通して、みんなにどんなメッセージを伝えたいのでしょうか。 ・どんなつらいことがあっても負けてはいけない。 ・小さくても、強く明るく生きてほしい。 ・自分を信じ希望をもって頑張りたい。 ・前向きに生きてほしい。 ◎ あなたは、真民さんからどんなメッセージを受け取りましたか。また、その理由は何ですか。 ・どんなつらいことがあっても負けてはいけない。なぜなら習い事の練習が大変でも、負けずに頑張りたいから。 ・小さくても、強く明るく生きてほしい。目立たなくても、楽しく明るく生活したいから。 ・自分を信じ希望をもって頑張りたい。なぜなら自分のいいところを見つけて伸ばしたいから。	○ 真民の年表を提示し、真民が多くの困難を乗り越えたことを確認し、「タンポポ魂」が生まれた背景を捉えさせる。 ○ ワークシートに記入することで、自分の考えをもたせる。 ○ 麻生っ子スマイルトークを通して互いの考えを伝え合うことで多様な考えに触れさせる。 ○ 意図的指名をすることで、多様な考えを全体で共有する。 ○ なぜそのメッセージを受け取ったのか理由を書かせることで、自分事として考えることができるようにする。		
3 自分を振り返る。	○ 今日の学習を通して学んだことを書きましょう。 ・今まではすぐにあきらめていたけれど、これからは粘り強く挑戦していきたい。 ・誰にでも弱い心や、それを乗り越える強い心があることが分かった。私も強い心で頑張りたい。 ・負けずに生きてきた真民さんのように、困難に負けないで夢をもって生活したい。 ・困難に負けないで生きていくことはすばらしいと思った。	☆ 自分らしくよりよく生きようとする意欲が高まったか。 (ワークシート)		

6 研究の視点

○ 真民が何を伝えたかったのかについて、麻生っ子スマイルトークを通して考えさせたことは、多様な考えに触れ、詩からのメッセージのイメージを広げ、ねらいに迫るための手立てとなったか。

教材分析シート

教材名（出典）	タンポポ魂（「坂村真民さんに学ぶ指導案集」砥部町教育委員会 坂村真民記念館 麻生小学校改編資料）	
主題名	よりよく生きる喜び	
教材の骨子	① 道徳的に変容したのは誰か。	坂村真民
	② 変容するきっかけとなったことは何か。	大きな困難に直面した際に、自然の草や花がもつ強さ、そして美しさに気付いた
	③ 生き方についての考えを深めるところはどこか。	60歳を迎えて自分の生き方を振り返り、タンポポ魂の詩を書いた
構成	話の展開	<p>①坂村真民</p> <p>屋敷に移り住んだ。</p> <p>お父さんが亡くなり、引っ越した。</p> <p>ずっと続くはずだ。</p> <p>元の生活に戻りたい。</p> <p>②自然の草や花がもつ強さ、そして美しさに気付いた。</p> <p>③60歳を迎えて自分の生き方を振り返り、「タンポポ魂」の詩を書いた。</p> <p>どんなことがあっても負けない。</p> <p>小さくても、強く明るく生きていきたい。</p> <p>自分を信じ、希望をもって頑張ろう。</p> <p>自分らしく生きていきたい。</p>
	道徳上の展開	<p>幸せだな。</p> <p>毎日がつらい。</p> <p>これからもタンポポのように強く生きていきたい。</p>
中心発問と問い返し	◎中心発問 あなたは、真民さんからどんなメッセージを受け取りましたか。	
	<p>（予想される児童の反応） → （問い返し）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つらいことがあっても負けない。→どんなつらいことにも負けませんか。 ・小さくても、強く明るく生きていきたい。→小さくてもいいのですか。 ・自分を信じ希望をもって頑張る。→自分のどんなところを信じていますか。 	
ねらいに迫った児童の考え	夢や希望をもって自分らしくよりよく生きていきたい。	
内容項目	Dよりよく生きる喜び（A希望と勇気、努力と強い意志 A個性の伸長 C伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度）	
ねらいの具現化	「タンポポ魂」を書いた坂村真民が何を伝えたかったかを考えることを通して、どんな困難にも負けない人間の強さや気高さに気づき、夢や希望をもって自分らしくよりよく生きていこうとする道徳的実践意欲を高める。	

1 日時 令和4年1月13日(木)第3校時(10:30~11:15)

於:自教室

2 主題

【内容項目】C 伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度
「我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、国や郷土を愛する心をもつこと。」

3 教材名 「焼き物の町に」(「とべのくらし」砥部町教育委員会 麻生小学校改編)

4 指導に当たって

【ねらいとする道徳的価値】

郷土は、生きる上での大きな精神的な支えとなるものであり、長じてからも心のよりどころとなる場所である。しかし、日々の生活の中で自分たちの郷土のすばらしさを実感したり、郷土への深い愛を感じたりする機会は多くない。

これからの郷土を担っていく児童に、郷土の伝統や文化に関心を持ち、理解を深めさせるとともに、郷土を愛する心を持ち、地域に積極的に関わろうとする態度を育てることが大切である。

【児童観】

本学級の児童(32名)は、社会科で砥部焼作りの工程や歴史について学習している。特に砥部焼が完成するまでの工程に強い関心を持ち、リーフレットにまとめる活動も行った。また、総合的な学習の時間には、砥部焼作り体験を行った。

しかし、砥部焼を発展させた人やそれを守り受け継ごうとしている人の努力に思いを馳せ、そのすばらしさを実感する機会は少ない。そのため、自分たちの郷土の伝統や文化に誇りを感じ、それらを愛する心をもつところまでには至ってない。

【目指す児童像】

郷土の伝統や文化を大切にし、郷土を愛する心を持ち、地域に積極的に関わろうとする児童

【教材観】

本教材は、陶祖・杉野丈助が砥部焼を生み出すまでの経緯をまとめたものである。丈助は何度も失敗を繰り返しながら焼き物作りに挑戦し、多くの人々の協力を得ながら、砥部焼を生み出す。200年以上も続く砥部焼は、丈助や多くの人々の努力や工夫によって始まったことを知り、人々の砥部焼への熱い思いを感じることができる。また、丈助の記念碑を建てた町の人の思いにも触れることができる。郷土を愛する心について考えさせ、地域に積極的に関わろうとする児童を育てるのに適切な教材である。

【本時の指導】

導入では、砥部焼の写真を見せ、身の回りの様々なところで砥部焼が使われていることを感じさせることで、本時の方向付けをする。

展開では、焼き物作りに挑戦する丈助の気持ちを考えさせ、砥部焼作りには大変な苦労があったことに気付かせる。また、丈助の記念碑はなぜ建てられたのかを考えさせ、丈助の功績に誇りを持ち、砥部焼を発展させようとする砥部町民の気持ちに共感させたい。終末では、ゲストティーチャーの話聞かせ、砥部焼に携わっている人の思いに気付かせる。その後、スマイル日記を書かせることで、郷土の伝統や文化に誇りを感じ、それらを愛し大切にしようとする心情をもたせたい。

【本時の指導と他の教育活動との関連】

社会科「郷土の伝統や文化と先人たち」「特色ある人々と地域のくらし」 総合的な学習の時間「砥部焼作り体験」

5 本 時

(1) **ねらい** なぜ記念碑が建てられたのかを考えることを通して、丈助の行動や砥部焼に誇りを感じ、受け継ごうとしている砥部町民の思いに気付き、郷土の伝統や文化を大切にし、郷土を愛する心情を育てる。

(2) **準 備** ワークシート、掲示物、タブレット

(3) **展 開**

学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点 ☆評価
1 本時のめあてに対する方向付けをする。	○ 砥部焼がたくさん使われていることを知っていますか。 ・道路沿いに砥部焼が展示されている。 ・CMでも使われた。 ・国連事務局にも展示されている。	○ 様々なところで使われている砥部焼の写真を見せることで、本時への方向付けをする。 ○ 社会科の学習を想起させ、砥部焼は杉野丈助が生み出したことを思い出させる。
2 教材「焼き物の町に」を読んで話し合う。 (グループ) ↓ (全体)	杉野丈助の記念碑が建てられたのはどうしてだろうか。 ○ 村の人たちが協力してくれたとき、丈助はどのようなことを思ったでしょう。 ・うまくいなくても、あきらめない。 ・地域のためになんとしても完成させたい。 ・みんなが協力してくれるから頑張ろう。 ◎ 町の人には、どのような思いで記念碑を建てたのでしょうか。 ・丈助のおかげで、今の砥部町がある。 ・丈助の思いを受け継いでいきたい。 ・砥部焼をこれからも大切にしたい。 ○ ゲストティーチャーの話を聞きましょう。	○ 丈助の思いを考えさせることで、砥部焼作りには大変な苦労があったことに気付かせる。 ○ 地域のために焼き物を完成させようとする丈助の気持ちに共感させる。 ○ 自分の考えをもたせるために、まずワークシートに記入させる。 ○ 「麻生っ子スマイルトーク」を行い、多様な意見にふれさせる。 ○ 記念碑建立当時の写真を見せたり、記念碑が建てられた経緯を説明したりすることで、丈助や砥部焼に誇りをもっている人々の思いに気付かせる。 ○ 砥部焼に対する熱い思いを直接聞かせることで、砥部町民として郷土を誇りに思う人の気持ちを感じ取らせる。
3 自分を振り返る。	○ 今日の学習を通して学んだことを書きましよう。 ・自分と同じ砥部町の人が、ここまで努力して砥部焼を作ったのがすごいと思った。 ・丈助もすごいし、丈助が生み出した砥部焼がある砥部町を大切にしたい。 ・砥部町ってすてきだな。これからもっと砥部のことを知りたいな。	☆ 郷土の伝統や文化を大切にし、郷土を愛する心をもつことができたか。 (ワークシート)

6 研究の視点

○ 砥部焼に携わっている方の話を聞く活動は、砥部町民として砥部焼を誇りに思う人の気持ちにふれ、道徳的価値について自分の考えを深めさせる手立てとなったか。

教材分析シート

教材名（出典）	「焼き物の町に」（「とべの暮らし」砥部町教育委員会 麻生小学校改編）	
主題名	ふるさとのために	
教材の骨子	① 道徳的に変容したのは誰か。	杉野丈助
	② 変容するきっかけとなったことは何か。	村の人たちが戻ってきて、砥部焼作りに協力してくれたこと
	③ 生き方についての考えを深めるところはどこか。	地元の産業として成り立たせるために、砥部付近の山々を歩き回って、砥部焼に合う石を見つけた
構成	話の展開	
	道徳上の展開	
中心発問と問い返し	◎中心発問	町の人、どのような思いで記念碑を建てたのでしょうか。
	(予想される児童の反応) → (問い返し)	<ul style="list-style-type: none"> ・丈助のおかげで今の砥部町がある。→丈助は砥部町にとってどんな存在ですか。 ・丈助の思いを受け継いでいきたい。→どんな思いですか。 ・砥部焼をこれからも大切にしたい。→どのように大切にしますか。
ねらいに迫った児童の考え	杉野丈助の思いや砥部焼を大切に、砥部町に住んでいることを誇りに思う。	
内容項目	C 伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度 (A 希望と勇気, 努力と強い意志)	
ねらいの具現化	なぜ記念碑が建てられたのかを考えることを通して、丈助の行動や砥部焼に誇りを感じ、受け継ごうとしている砥部町民の思いに気づき、郷土の伝統や文化を大切に、郷土を愛する心情を育てる。	

【1】

1909（明治42）年1月6日、真民さんは5人兄弟の長男として熊本県で生まれました。真民さんのお父さんは、地元の小学校の校長を務める村の教育の中心者でした。お母さんは武家の出身で、なぎなたの達人でもあり、熱い情熱をもった人でした。

真民さんが6才で移り住んだ家は、大きな川に面し、色とりどりの花や村一番の大木、そして大きな庭を合わせもつ、堂々とした風格のある屋敷でした。

ここで真民さんは、楽しい時をたくさん過ごしました。

お父さんと一緒に川釣りに出かけたこと。

お母さんに作ってもらったふかしパンがおいしかったこと。

お父さんとお母さんが広い庭でなぎなたの試合をよくしていたこと。

たくさんの本が読めたこと。

幼い真民さんにとってはどれもこれも、光る思い出となりました。

【2】

しかし、真民さんが8才のとき、お父さんが病気により42才で突然亡くなりました。祖母が、真民さんをふくめた上の3人は奉公※に出し、下の2人を引き取ろうとしましたが、お母さんは断り続けました。そして、ちがう村の谷間にある小さな家に子ども5人を連れて移り住みました。

そこからは、これまでとはまるでちがった、どん底の生活が始まりました。

家は暗くて小さく、質素なつくりでした。夜明け前になると、いつも家からはなれた共同井門まで水くみに行きました。学用品を買うお金を作るため、お母さんと一緒にわらざうりを編み続けました。荒れ果てた畑を借り、必死で耕して作りたいもやそばで、自給自足の生活を送りました。そしていつしか内気になっていったため、友達がなかなかできず、孤独な日々を送りました。

まさに、毎日が生きていかねばならない戦いでした。

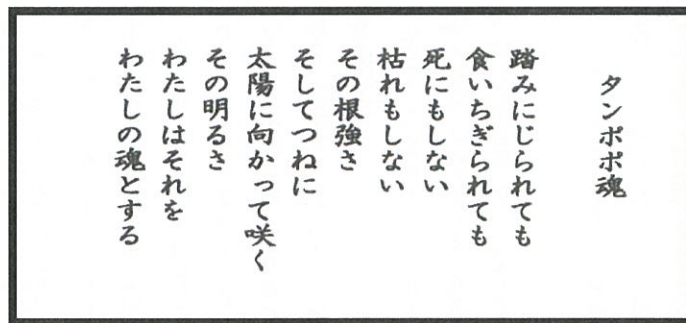
そんなつらい日々を過ごす中、真民さんが気付いたことがあります。

それは、自然の草や花がもつ強さ、そして美しさでした。

【3】

その後も、お母さんが亡くなったり、自分自身が内臓の病気となり、ひどい痛みが全身をおそったりしましたが、真民さんは懸命に詩を作り続けました。詩は真民さんの夢や希望であり、自分自身を表現する手段でした。

後に、詩人として活やくし、苦しみ悩む人々を励まし続ける真民さんが60才を迎えたとき、自分の生き方を振り返り、次の作品を世に送りました。



真民さんは、この詩の紹介にあたり、次のように記しています。

「タンポポは雑草である。金にもならぬ野の花である。そういう花にじっと目を注ぎ、じっと見つめ、ああタンポポは自分自身だと思い、励まされ教えられ、私は生きてきたのである。」

「小さい花でいいのだ、人にほめられるような大きな美しい花ではなく、だれからも足をとめて見られなくてもいい、本当の自分自身の花を咲かせたらいいのだ。」

【4】

やがて、真民さんの詩は世の中に広まり、多くの人に親しまれました。詩だけでなく、その人柄や生き方も愛され、世界中の人から慕われました。「癒しの詩人」と言われ、97年の生涯をまっとうしました。

真民さんの詩をほった詩碑は、日本に700か所以上、世界各国にも36か所を数えます。今でも、日本全国に、世界中に、真民さんの思いは広がり続けています。

※ 奉公… お店などに住みこみ、そこの仕事の手伝いをする事。

参考「坂村真民記念館 公式ガイドブック」、随筆集「愛の道しるべ」（サンマーク出版）

資料：地域教材「焼き物の町に」

【授業で使った教材】



しかし、焼き物作りは、苦労の連続でした。一回目は、焼き物にぬる薬や温度がうまくいかず、大きなひびが入ってしまい失敗しました。それでも、丈助は、あきらめずに研究を続け、二回、三回と焼いてみましたが、何度くり返しても同じでした。

薬がとけず、まきがなくなると、家の中のゆか板やおぼ



焼き物の町に

砥部町で有名なものといえば、砥部焼です。砥部焼は、ややめし手の器に「こす」といわれるうすいあい色の手がきのもようが特ちょうで、花びんや食器が有名です。砥部焼はほとんどが手作りで、とく特の風合いは多くの人の心をひきつけています。この砥部焼を始めたのが、浮穴郡上麻生村（今の砥部町）出身の杉野丈助という人です。

当時、大洲藩は、干ばつによる農作物の不作や大火事などで財政がとて苦しくなっていました。そこで、高価な磁器で豊かな国をつくらうと考え、一七七五年、「砥部の陶石を使って磁器を作り、財政を立て直してほしい。」と、この様は丈助にお願いしました。大洲藩は、肥前（今の長崎県）から、五人の焼き物作りの人をよつてきました。そして、丈助は、五本松というところからまをつくり、焼き物作りを始めました。



ん、たんすなど、自分の家の物まで全部かまの中に入れて、燃やし続けました。何度も失敗する様子を見た五人の焼き物作りの人たちは、あきれてこきようへ帰ってしまいました。家の人は、丈助がおかしくなったと思い、にげていきました。

このころ、砥部に来ていた筑前（今の福岡県）の信吉という人が、丈助のじょう熱に感動し、「丈助の失敗は、薬にある。」と教え、筑前に薬をさがしに行くようにすすめました。丈助は、信吉の言う通り筑前に行き、薬を手に入れて帰りました。村の人たちも、あきらめずにながらばる丈助に協力しました。

そして、手に入れた薬を使って焼いてみると、うまく薬がとけて、りっぱな焼き物が出来上がりました。一七七七年のことです。砥部焼をつくり始めて、二年九月という早さで、完成させたのです。

さらに、この薬のもととなる石を他の場所から買うのは大変だと考え、砥部付近の山々を自分の足で歩き回って石を調べました。そして、やっと伊予市の三秋で砥部焼に合う石を発見しました。



その後、多くの人の努力で、砥部焼は売りました。一八五三年には、砥部には十七けんのかま元ができ、砥部焼の生産額は村全体の米の生産額と同じくらいになりました。現在、砥部焼の生産額は、四国の伝とう工芸品の生産額の中で第一位となり、砥部の大切な産業となっています。

この丈助の努力としゅう念が、今日の砥部焼のもとを生み出し、砥部町の発展につながっています。この功績をたたえ、砥部小学校の近くに、丈助の記念碑が建てられています。丈助は、今日も、砥部町を見わたしているでしょう。

【授業後に改編した教材】

焼き物の町に



砥部町で有名なものといえば、砥部焼です。砥部焼は、ややあつ手の器に「ごす」といわれるうすいあい色の手がきのもようが持ちようで、花びんや食器が有名です。砥部焼はほとんどが手作り、どく特の風合いは多くの人の心をひきつけています。この砥部焼を始めたのが、浮穴郡上麻生村（今の砥部町）出身の杉野丈助という人です。

当時、大洲藩は、干ばつによる農作物の不作や大火事などで財政がとても苦しくなっていました。そこで、との様は丈助に焼き物作りをお願いしました。さらに、肥前（今の長崎県）から、五人の焼き物作りの人をやとなど、丈助の焼き物作りに協力しました。丈助は、五本松というところにかまをつくり、焼き物作りを始めることになりました。

しかし、焼き物作りは、苦勞の連続でした。何度も失敗する様子を見た五人の焼き物作りの人たちは、あきれてこきようへ帰ってしまいました。

さらに、家の人も、丈助がおかしくなったと思い、にげていきました。

村の人たちは、始めは、家の家具やゆかまで焼いてしまう丈助の砥部焼作りを、冷ややかな目で見ていました。しかし、あきらめずにがんばる丈助の姿を見て、少しずつ協力する人がふえてきました。大洲藩のために、砥部のために、失敗しても失敗し



ても焼き物を作り続ける丈助に感動し、とうとう村中の人が協力するようになりました。土作りに協力をする人、まきを用意する人、食事などの身の回りの世話をする人など、村中が焼き物作りに夢中になっていきました。そして、一七七七年、砥部焼が完成しました。丈助の情熱と、村の人の協力のおかげで、二年九か月という早さで、完成させたのです。しかし、丈助は、それでも満足せず、砥部の産業にするために努力を続けていったのでした。



その後、丈助の情熱と努力は実を結び、さらに多くの人々の努力で、砥部焼は発てんし、現在の砥部町の発てんにもつながっています。現在、砥部焼の生産額は、四国の伝とう工芸品の生産額の中で第一位となり、砥部の大切な産業となっています。

この功績をたたえ、砥部町で杉野丈助の記念碑をたてようという運動が起きました。なんと、この運動は、今から八十年ほど前、丈助に会ったこともない人たちによって起きたのです。しかも、当時、日本は戦争中で、本当にまずしい生活をしていました



が、砥部の人々は記念碑をたてるために、お金をおしまず寄付したのです。碑をたてるにはたくさんのお金が必要なのですが、砥部の人々の寄付だけで十分なお金が集まったのです。そして、一九四二年八月、砥部小学校の近くに、りっぱな丈助の記念碑がたてられたのでした。



